

「極端気象の顕在化に伴う大規模浸水に関する講演会」を開催しました

寒地河川チーム

平成28年2月26日(金)に、当寒地土木研究所講堂において「極端気象の顕在化に伴う大規模浸水に関する講演会」を開催しました。

昨年9月の鬼怒川の破堤氾濫災害は、改めて洪水氾濫災害の危険性や社会に与える影響の大きさを日本国民に強く再認識させる大きな契機となりました。

寒地土木研究所でも、氾濫被害軽減技術の研究に取り組んでおり、研究成果の社会還元の一環として、大規模浸水というテーマで講演会を企画しました。講演会には、国土交通省社会資本整備審議会専門委員としてご活躍されている、早稲田大学理工学術院教授 関根正人先生を講師としてお招きして、昨今の極端気象と大規模浸水災害についてご講演をいただきました。今回の講演には、コンサルタントや北海道開発局の技術者等、約70名の参加がありました。

まず、話題提供として、当研究所寒地河川チームの島田研究員から、堤防決壊の拡大を抑制し、緊急的に締め切るための技術開発に関する研究について、十勝川にある千代田実験水路を使った水理実験等の事例を交えて紹介がありました。同じく井上研究員からは、洪水氾濫時の避難支援技術として、氾濫予測結果を地図上に重ね合わせ、タブレット端末上で可視化する研究について紹介がありました。

早稲田大学の関根先生からは、「極端気象の顕在化に伴う大規模浸水」という演題で、都市浸水予測の最前線の研究について、大きく二つのお話がありました。一つ目は都市浸水予測モデルに関するもので、下水道網を精緻に取り込んだモデルと2005年の杉並豪雨の検証結果についてお話がありました。

二つ目は、浸水のリアルタイム予報技術の研究として、下水道網を取り込んだモデルにX-RAINによる降雨データを入力値とした東京都心部の浸水被害予測について紹介されました。さらに、荒川の越水破堤を想定した浸水予測結果についても解説がありました。

札幌市街を貫流する豊平川が氾濫した場合の災害イメージにも通ずるところが多く、会場と活発な意見交換が行われました。

表-1 講演会の演題

講演
「極端気象の顕在化に伴う大規模浸水」
早稲田大学理工学術院 教授 関根 正人氏
話題提供
「破堤氾濫被害の軽減に向けて」
寒地土木研究所 寒地河川チーム 研究員 島田 友典
「河川氾濫の見える化 3Dハザードマップの可能性」
寒地土木研究所 寒地河川チーム 研究員 井上 卓也



写真-1 関根 正人教授



写真-2 下水道への流入過程を説明する関根教授

(文責：船木 淳悟)